

柏市ペタンク協会

フランス生まれの鉄球を投げるシンプルな競技のペタンク。おしゃれで知的で、かつ「いつでも、どこでも、誰とでも」できるスポーツはそれほど多くはありません。しかし、極めるには奥が深い。



1. おいたち

昭和61年（1986年）東葛地区青少年相談員大会が船橋市で行われ、この時軽スポーツの一つとしてペタンクが紹介されました。この大会に参加していた沼南町在住の秋山博さんがこのスポーツに興味を持ち、船橋市のコートに練習に行くようになりました。

その後、小学校の父兄を仲間として昭和63年（1988年）4月、沼南町ペタンク協会を設立し、月2回の定期練習を公園や団地内広場で実施するなど、普及活動に取り組んできました。

平成2年（1990年）4月立川市昭和記念公園で開催された日本選手権大会で優勝を果たした秋山、藤本、荒井氏の3名の選手が、モナコでの第26回大会世界大会出場しました。これを機に沼南町の協力の下塚崎運動場の一角にペタンク専用コート（3面）が完成しました。

そして、翌年のアンドラでの第27回世界大会にも出場し、当協会からは2度に渡る世界大会への出場を果たしています。



2. ペタンク競技の概要

ペタンクは4m×15mのコート（クレイや砂利敷き）内で、ビュットと呼ばれる3cmほどの目標球をめがけて、サークル（50cm程度の輪）の中から、金属球（およそ直径7cm 700g）を投げて点を取り合うスポーツ競技です。少しカーリング競技に似ているところがありますが、平面のみならず、3次元方向に技術を要する奥の深い球技です。

そして、少しの広さがあれば屋外で手軽に、年間を通していつでも行えるところに特徴があります。

また、年齢層もとても幅広く子、親、祖父母が1チームとして構成することも可能であり、こうしたチーム構成はなかなか他のスポーツでは見られない風景です。

競技は個人戦となるシングルス。2名チームで対戦するダブルス。3名チームで対戦するトリプルス。があり、得点は11点先取が一般的で1試合あたり60分程度行います。

ペタンクは一見単純そうに見えますが、随所で戦略を練る頭脳プレイとメンタルの強さが求められ、たった1投で勝敗が逆転すること多々あり気が抜けません。

反面、仲間と気軽に和気あいあいにゲームもできますが上級選手が互いに腕を競い

あう、ハイレベルな試合もあります。



3.活動状況と今後の方針

沼南町が柏市と合併となり「柏市ペタンク協会」となった当初は、会員20名程度でしたが、平成22年（2010年）「ゆめ半島千葉国体」でペタンクが柏市のデモスポ競技となり、多くの市民に興味を持っていただき、会員の増加に繋がりました。

令和6年4月現在の会員数は47名で、男性が31名、女性が16名。年齢層を見ると20歳代の大学生から80歳代のベテランまで年齢層がとても幅広く、いかにペタンクという競技が年齢や性別に関係なくチャレンジできるスポーツの証といえます。

年間の主な活動としては、県内及び近隣で開催される各地のペタンク大会に参加し、協会員同士で適時チームを編成して、日頃の成果を確認しています。

また、全国レベルでの大会は日本ペタンク・ブール連盟が主催する「全日本選手権大会」がありますが、千葉県代表となるために、県内の選考会を通過するべく、練習を積み重ねて、柏市ペタンク協会員同士で代表チームになることが目標です。

また、日本選手権出場できるレベルとなり、優秀な結果を残せば、日本代表として世界に羽ばたくことも決して、夢物語ではありません。有望な選手を柏市ペタンク協

会から輩出することが究極の目標です。

なお、勝敗に拘ることなく健康維持の一環としてもペタンクは、運動強度をコントロールできるため最適で、会員がそれぞれのスタンスで取り組んでいます。



柏市ペタンク協会の主催大会としては、年に①フレッシュ柏ペタンク大会 ②柏市ペタンク大会を開催し、ペタンクを始めたばかりの人や各地域からのペタンカーが集う大会となっています。

また、柏市ペタンク協会としては、独自にシングルス大会やティール大会、そして年末に「合宿練習会」と称して、泊まりがけで2日間集中して練習を行い、親睦も深めてチームワーク醸成に取り組んでいます。この魅力ある競技をもっとたくさんの方に知っていただき、そして、楽しんでもらいたいと思います。



詳しくは公式 HP を是非ご覧下さい。

<http://srk6095.starfree.jp> 柏ペタンク検索